

この作品は、ハンセン病元患者の不幸な隔離政策を描く感動の人権問題啓発映像である。

石田雅男さんは、10歳の時「らい病」と診断されて親と引き離され、人目をさけて

貨物列車、トラックと荷物のように愛生園に運ばれ社会から排除されて60年が経った………！

ハンセン病

今を生きる

文部科学省選定

小林 綾子

製作 八頭司 享 / 監督 原田 隆司

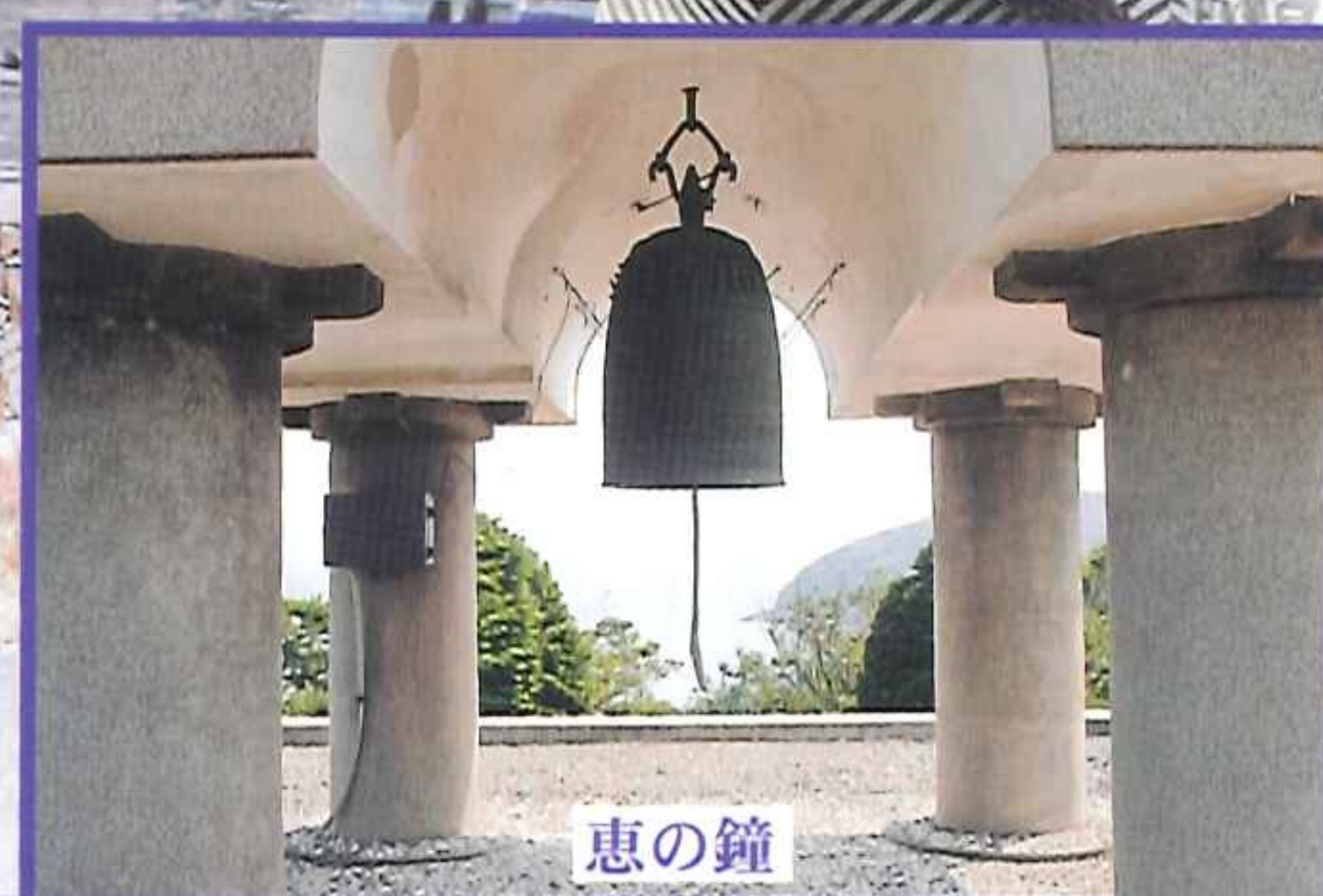
ナレーター 三波 豊和



隔離された島と本土を結んだ
「人間回復の橋」
久長島大橋



納骨堂



恵の鐘



森永 悠希/浜口ななみ/西林佐和子/上沢 貴士/大木 裕美/松本 元

プロデュース 八頭司 重信/脚本 朝倉 仁/はづしたかし

撮影/林 健作/照明/岸田 和也/録音/山川 暢之/製作補/原田 喜久美/助監督/段上 実/制作デスク/竹田 治/進行主任/八頭司 英三

制作協力/国立療養所長島愛生園/国立療養所長島愛生園入所者自治会

撮影協力/鳥取県大山町立大山西小学校/国立療養所久光明園/兵庫県稲美町/NPO法人とっとりフィルムコミッション

人権啓発ドキュメンタリー映像！



ハンセン病

文部科学省選定

今を生きる

製作 八頭司 享 / 監督 原田 隆司



ハンセン病は長い間、誤解されてきました。

ハンセン病は「らい病」と診断された患者が、強制的に隔離されたことから『強い感染力をもった恐ろしい病気』『恐ろしい伝染病』という間違った考えが広まり、偏見と差別を大きくしたといわれています。現在では早期発見と適切な治療で、障害を残すことなく治る病気です。私たちはハンセン病について正しく理解し、差別や偏見をなくしていかなければならないのです。

小林 綾子

ナレーター 三波 豊和

プロデューサー八頭司 重信 脚本朝倉 仁/はづしたかし 製作補原田 喜久美 撮影林 健作 照明岸田 和也 録音山川 暢之 助監督段上 実 制作デスク竹田 治 進行主任八頭司 英三

「人と人のふれあい、私たちにはそんな言葉はなかった。ハンセン病ということで、隣近所から冷やかな恐ろしい目で見られ、村八分になり、親兄弟も離れ離れになり家族は崩壊していった。今、故郷に帰っても周りの人が受け入れてくれるだろうか？ただ、残り少ない人生を人間として生きたい。」そう語る石田さんは、現在ハンセン病を理解してもらうために、精力的に講演活動をされておられます。10才の時、荷物のような扱いをされ、貨物列車、トラックと人目を避けて乗り継ぎ愛生園に隔離された入所者で、元自治会の会長でもあります。その石田さんの70年の人生を通して、ハンセン病であるがために親と別れ、強制的に隔離された苦難の60年の歴史を愛生園の協力を得て、素晴らしい映像として完成することができました。

また、妻の懐子^{なつこ}さんも4才で父を亡くし11才の時「ハンセン病」を発病し、愛生園に隔離されて、栈橋で母と祖母に置いていかれ連絡もなく30年。最近やっと母と再会、母も我子がハンセン病であるがために人目を忍んで生きてきたことを聞き、「今までの恨みは消えていきました」と語る懐子さん。現在夫婦で講演活動に精を出し「講演先の子ども達や地域の人たちの温かい心にふれ、元気がでます。」と語る石田さんご夫婦。

また、女優の小林綾子さんは、石田さんの著書「人間として生きたい」を読まれ、石田さんが10才まで育った鳥取県境港市、大山町、岡山県国立療養所長島愛生園を訪れ、自らもハンセン病について正しく学び、「社会に根強く残っている偏見や差別を無くしていきたい。」と呼びかける感動のドキュメンタリー映像です。

石田さんと交流のある

鳥取県大山町立大山西小学校の児童感想文より

浅田^{みずき} 瑞生（5年生）

橋（人間回復の橋）をかけ終わった後、年老いた人が「あんな汚い人たちが橋をかけた。あんな橋をかけなくてもよかったのに」と言っておられたと石田さんがおっしゃっていました。なぜこんなことを平気で言えるのか、考えてみたら、人の立場になって考えていないからだと思います。私は、ハンセン病のことを勉強してきてよかったです。なぜなら正しいことを知ることができたからです。これからは人の立場になって考えていきたいです。

山崎^{まあ} 真阿（5年生）

石田さんは10才の時に発病して、愛生園に送られる時、汽車に乗っても夜にならないと降ろしてもらえず、トラックに乗りかえても、荷物のようにあつかわれたと言っておられました。私だったらとてもたえられないなあと思いました。私はハンセン病を学習して二度とこういう事が起こらないように努力したいと思いました。



（上映時間49分）

・お問合せ・お申込みは

（映）有限会社 博映商事

TEL 092-741-0306 FAX 092-741-6628

〒810-0073 福岡市中央区舞鶴1-3-31-220

【HP】 <http://hakuei-shoji.jp>

【E-Mail】 info@hakuei-shoji.jp